

# 斜里町のウバザメ漂着事例

村上隆広<sup>1\*</sup>・増田泰<sup>2</sup>・藤澤雅樹<sup>1</sup>

1. 099-4113 北海道斜里郡斜里町本町 49-2, 斜里町立知床博物館 2. 099-4356 北海道斜里郡斜里町大字遠音別村字岩宇別 531, (財) 知床財団

## Stranding Records of Basking Shark *Cetorhinus maximus* to Shari Town, Eastern Hokkaido

MURAKAMI Takahiro<sup>1\*</sup>, FUJISAWA Masaki<sup>1</sup> & MASUDA Yasushi<sup>2</sup>

1. Shiretoko Museum, 49-2 Hon-machi, Shari, 099-4113 Hokkaido, Japan. [murakami.ta@town.shari.hokkaido.jp](mailto:murakami.ta@town.shari.hokkaido.jp) 2. Shiretoko Nature Foundation, 531 Iwaubetsu, Shari, 099-4356 Hokkaido, Japan

The basking shark *Cetorhinus maximus* is the second largest sharks in the world. As this species has decreased by commercial fishing, currently it is ranked as “Vulnerable” of the IUCN Red list of threatened species. In 1995 and in 2010, two males of this species were stranded to coastal area in Shari town. This is the first report of the Basking shark stranding to the town.

### はじめに

ウバザメ *Cetorhinus maximus* は世界で 2 番目に大きいサメの仲間です。温帯から寒帯に分布する。肝臓から採取される油や肉、皮を目的として商業的に捕獲されてきた歴史があり、減少した。現在は国際自然保護連合 IUCN のレッドリストで、絶滅危惧種 (VU: Vulnerable, A2) に判定されている。

本種が斜里町の海岸に 1995 年と 2010 年に 2 回漂着した。生態も十分に調査されていない種であり、このような漂着事例は貴重な資料となる。本稿では 2 件の漂着事例を報告し、関連する情報を提示する。

### 漂着事例 1

1995 年 1–2 月頃に流水中であつた死体を発見したものの、接近できなかったために 4 月 14 日にあらためて外部計測などを実施したものである (表)。時間経過のため腐敗が進行しており、頭部付近の鰭が分離していたほか、腸が外部に露出していた。標本は採取しておらず、個体はその後消失した。

### 漂着事例 2

2010 年 11 月 4 日の早朝に流れ着いていた死亡個体の発見者から、同日午前中に知床博物館に通報があつた。現場で個体を確認し外部計測した (表)。また、DNA 解析用の筋肉を採取した。その後潮が満ちて作業困難となつたため翌 9 月 5 日に博物館敷地内に移動させ、標本採取後に埋却した。採集した標本は、皮膚 (長さ約 2 × 1 m × 2 片)、頭部先端、上顎、下顎、外部生殖器 (陰茎)、胃内容の一部、筋肉、肝臓である。個体に外傷はなく、死亡および漂着理由は不明である。胃および口腔内からは甲殻類が確認された。

### 考察

ウバザメは温帯から寒帯まで世界的に広く生息しており、このうち北太平洋では日本近海のほか中国沿岸、カリフォルニアからブリティッシュコロンビアまでの海域に分布している (IUCN. *Cetorhinus maximus*: IUCN Red List of Threatened Species. Version 2010.4. IUCN, <http://www.iucnredlist.org/apps/redlist/details/4292/>. accessed Dec. 30, 2010). 水産総合研究センターの『国際漁

表. 斜里町におけるウバザメの漂着事例. Table. Stranding records of basking shark *Cetorhinus maximus* to Shari town.

	漂着事例1	漂着事例2
漂着日	1995年1-2月頃	2010年11月4日
漂着場所	斜里郡斜里町ウトロ (44°3'19" N, 144°57'44" E)	斜里郡斜里町朝日町 (43°55'04" N, 144°40'38" E)
確認者	増田泰 (知床博物館 (当時), 現: 知床財団)	内田暁友 (知床博物館)・野別貴博 (知床財団)
性別	♂	♂
成幼	成魚	成魚
全長	810 cm	815 cm
体長	-	660 cm
体重	-	約4 t
生殖器	-	左 96 cm, 右 98 cm



図. 2010年11月4日に斜里町に漂着したウバザメ. Fig. The basking shark *Cetorhinus maximus* stranded to Shari town on November 4, 2010.

業資源の現況』によれば, 国内では1960年代後半から1970年代にかけて三重県などで漁獲され, 1967-78年の12年間に1,200尾以上が水揚げされている (中野 秀樹・松永 浩昌, ウバザメ: 日本周辺, 平成21年度国際漁業資源の現況34, 水産総合研究センター研究推進部, [http://kokushi.job.affrc.go.jp/H21/H21\\_34.pdf](http://kokushi.job.affrc.go.jp/H21/H21_34.pdf), 2010年12月30日閲覧). また, 相模湾で定置網に混獲された事例が1961年3月, 2005年6月, 2009年4月の3件報告されている (崎山ら 2010) ほか, 茨城県日立沖でも2007年4月に定置網に混獲された事例があった (茨城県大洗水族館, 世界最大級! ウバザメ混獲について, 茨城県大洗水族館, [http://www.aquaworld-oarai.com/gyorui/top\\_ubazame.html](http://www.aquaworld-oarai.com/gyorui/top_ubazame.html), 2010年12月30日閲覧).

オホーツク海では本稿の2例のほかにも, 紋別港に2010年10月に漂着した例がある (北海道新

聞, 2010年10月1日朝刊オホーツク面). このようなことから, ウバザメがまったく偶発的に日本近海に現れるのではなく, この海域を移動ルートまたは生息地としていることが推測される. しかし『国際漁業資源の現況』では近年の来遊数の減少が指摘されており, IUCNも個体数減少と評価していることから (IUCN Ibid.), 本種の生息数は世界的に見ても少ないといえる.

斜里町に2回漂着した個体はいずれも体長8 mを越すオス成魚であった. 茨城県日立沖の個体は体長約8.6 m, 体重4.6 tと今回の個体より大きい, 本稿の2件はウバザメの中でも大きいクラスの個体と言える. 同じオホーツク海である紋別での混獲事例も体長6.3 mのオスであり, 相模湾での3件がいずれも3-4.5 mと比較的小型であるのと対照的である. 本種の生態には不明な点が多く, 今回の事例が生態解明につながる情報のひとつとなるかもしれない.

#### 謝辞

北海道大学名誉教授の仲谷一宏氏, 東京農業大学生物産業学部の白井滋氏, (財) 知床財団の野別貴博氏にはウバザメ漂着の際の計測や標本採取について御教示いただきました. 心よりお礼申し上げます.

#### 引用文献

崎山直夫・瀬能宏・樽創. 2010. 相模湾におけるウバザメ (ネズミザメ目, ウバザメ科) の出現状況. 神奈川自然誌資料31: 55-58.